

4 今後の動き（研究、ネットワーク化、モデル事業ほか）

WORK! DIVERSITY プロジェクトの今後の活動について、竹村利道公益財団法人日本財団公益事業部シニアオフィサーから報告しました。

4. 1 報告者プロフィール

1964年、高知県高知市生まれ。高知市の総合病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務後、特定非営利活動法人ワークスマらい高知の代表を経て、現在は、日本財団国内事業開発チームシニアオフィサーとして「はたらく NIPPON! 計画」の指揮を執る。



日本財団竹村公益事業部シニアオフィサー

4. 2 報告

竹村 皆さん、お疲れさまです。最後のプログラムです。時間が若干押していますが、4時30分にタイマーをセットしていますので、その場でスパッと終わりますので、もう少し我慢をお願いします。

P50の2019年度の事業計画をご覧くださいと思います。今日一番話したかったのは、今日来ていただいている皆様に、現在地、一体私たちはどこにいるんだという現在地を明確に伝えるということをしたかった。そこに関しては、今岩田さんが説明してくれたものが現在地です。ここから先は、そのさらに現在地を直進したり、山を越えていったり、壁をぶち壊していったりしながら進んでいく続けるというのが事業計画です。この中で特に50ページを開いていただくと、有識者ヒアリングがあります。今日も引きこもりの方々や支援の方々に来ていますが、昨日も佐賀県で積極的に引きこもり支援をされている谷口仁史さんとお目にかかりました。そういった事例、最先端の事例をぜひとも全国に紹介する作業をしていきたいと思っています。一方で、自治体からの問い合わせも多かったのですが、言い方は適切なかわかりませんが、就労困難態様別の取組みをされ

ている方々からたくさん関わりを求めて問い合わせがありました。こうした中で、一体日本全国では、働きづらさ、生きづらさに対して、民が、官が、どういう支援をやっているのだろうかという、全国の俯瞰図が欲しいなと思うようになりました。その人たちとネットワークを組んでぜひ永田町に、こういう政策がいかがでしょうかということ、国会議員の方々を通じて伝えていくために、ネットワーク図をつくろうと思っています。急に当ててごめんなさい、その仕事をしてきている岩本さんが大阪から来ていますので、岩本さん、ちょっと現状をしゃべってください。

岩本 初めまして。NPO 法人み・らいずの岩本と言います。今年度働きづらさを抱える若者の支援機関が全国にどんなところがあるのか調査して、それを一覧にしていこうという事業を日本財団から助成金をいただいてやっております。ただ、その働きづらさというものが、かなり幅広くて、ダイバーシティで支援していると言ってしまうと簡単なのですが、その中でも、こういった就労困難の様態があるのかということ、引きこもりとか、そういったところだけではなく、その根底にある個人の因子とか社会的な因子まで、要素みたいところまでを、今分解していけないかなというところを検討しながら考えているという段階でして、ぜひこの中で、そういった方々に対して、こういった就労困難者に対して支援しているというのがあれば、ぜひいろいろな情報をこの場でいただければと思っています。

竹村 そうなんです。各対応別で支援をされている方は、ぜひ彼に名刺を渡して帰ってください。来年度のフォーラムでは、岩本さんから全国 1,250 の、例えば就労支援をいろいろな人たちにしているというネットワーク図を皆さんに提供できればと思っています。プレッシャーをかけました、今。岩本さん、頑張ってください。

岩本 頑張ります。

竹村 もう一つ、私は、今日人材は供給されても、企業サイドにどうマッチングしていくか、アフターフォローをしていくかがけっこう大きい課題だと思います。そして、私は大阪に、未来を感じる希望の答えがあるような気がします。今日ハローワークじゃなくて、ハローライフ。もう文字が違ったらこんなに前向きに人って働こうと思うのかという実践をしている、もう最近内閣府でも引っ張りだこの塩山さんが来られていますので、一言コメントをいただけたらありがたいです。

塩山 なにも引っ張りだこではないんですが(笑)。大阪から来ました、ハローライフの塩山と申します。非常に今回期待をしているというか、大阪でいろいろと国の施策、ハローワークを含めて、もっとアップデートしていければいいなと思っていたところを、竹村さんが先頭を切ってというか、これだけ巻き込んでやっていかれているというところがありますので、金魚のフンみたいな形でくっついていきたいなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

竹村 塩山さんは本当に働くことって前向きです。若者で引きこもっている人も含めて、いろいろな人が前向きに働くことを考えはじめるといいう仕組みを作っている。最近やったのは、こたつで就活ですか？ 何人来たんですか？

塩山 あれは 200 名くらい。

竹村 200名のこたつで就活する。今日来られている慶応大学の学生からしたら、「何やってんの、この人」みたいな感じで、面白いお兄ちゃんだったりしますので、ぜひそのへんをネットワークしていきたいなと思います。最後に、今日は若手ばかり指名していますが、後藤千絵さん。障害者手帳うんぬんに縛られない、グレーゾーンの人々に支援をしているという意味では、ワークダイバーシティの先駆的な活動をしているかと思います。ちょっと一言コメントをいただけますか。

後藤 岐阜から来ました、一般社団法人サスティナブル・サポートの後藤と申します。私は予防的支援という観点で支援に取り組んでいます。現在、引きこもりやニートの問題が大きな問題になっていると思うのですが、本業のほうは障害者就労移行支援事業所をやっています、そういう就労移行に来る方が、どうして、いつの段階でそういう発達障害等の診断を受けるのだろうというところから、社会に出る前の支援をできないかなということで、こつこつと岐阜で取り組んでいました。就労支援フォーラムに参加したことから竹村さんにつながり、こんなところまでこらせていただくようになりました。全国の皆さまとつながれたらと思います。よろしくをお願いします。

竹村 ありがとうございます。今後とも、随時、ダイバーシティ就労支援機構のホームページと、私たち日本財団 **WORK! DIVERSITY** のオフィシャルのホームページで日々の活動をお伝えしていきます。くれぐれも、何回も言いますが、障害者福祉の予算を減らそうというものではございませんし、先ほどのパネルディスカッションで話がでたスティグマをつけようと、そんな焼き印をつけようというものでもないのです。今この社会の中にあるいろいろな制度を、誰かのためにじゃなくて、みんなのためにすることができて、既存の行政システムも、こういうふうに変ればもっと使える、もっとみんなが持続可能になるかもしれない、ということと一緒にやっていくというプロジェクトです。そのための展開が始まろうとしていることをご理解いただければと思います。では一旦終わりますが、どうか今後にご期待ではなく一緒に動いていきましょう。ありがとうございます。

司会 以上をもちまして、第1回 **WORK! DIVERSITY** フォーラムのプログラムを全て終了いたしますが、閉会にあたり、日本財団竹村に再度マイクをお渡しします。

竹村 またお前かと言われそうです。最後、私はしゃべらないです。すいません。お二方に、全然事前通告していないのですがお願いします。まず、薬師さん。一言いただけますか。今日感じたこととか、皆さんに伝えたいこととか、ご自身のことを含めてお話いただければと思います。

薬師 LGBTの就活生を応援しています、リビットというNPOの薬師と申します。LGBTは、日本全体では、13人から20人に一人なのですが、日本財団の助成をいただいた調査の中では、LGBTの4割、トランスジェンダーの9割近くが就活でハラスメントを受けているという状況があります。セクシュアリティを伝えると内定切りをされたという事象もあります。さらには、LGBTは精神疾患率が高い、引きこもり経験率が高いという調査もあり、皆さまと協働させていただきたいところがたくさんあると思っています。是非勉強をさせていただければと思っています。よろしくをお願いします。ありがとうございました。

竹村 では、最後に、山形から KHJ 全国ひきこもり家族会連合会の伊藤代表が来られていますので、今後の期待と引きこもりの支援の就労支援の現状等々について少しお話しいただければ幸いです。

伊藤 初めまして。KHJ 全国ひきこもり家族会連合会の代表をしております、伊藤と申します。今日山形県の米沢から来ました。山形県の米沢で障害者就労継続支援 B 型事業所もやっています、いろいろな福祉制度がある中で、やはり引きこもりの方々に対して出口をつくらないといけない、そんなふうに思いまして、いろいろやっているのですが、なかなか難しいですね。時間がかかります。なぜかという多様性なんです。10 人いれば 10 人の生き方があって、それを支援するというのは、支援する側も非常に困難を極めます。そういう意味で社会システム、きちんと新たな社会システムをつくるということが、今回の日本財団事業の目的であると理解していきまして、そこに大きな期待をしています。それとともに、私たち家族会も何をやっていけばいいのかという一つのモデルになっていきたい、そんなふうに考えております。引きこもりの方々はそれぞれに人生を背負っていながら、家族もろとも社会から孤立している部分が多いものですから、引きこもり本人だけではなく、家族の支援も考えた枠組みづくりをやっていきたい、そんなふうに思っております。ぜひ応援していただきたいと思います。よろしく願いいたします。

竹村 今日はお二人だけお話しいただきましたが、今後に関してはどうか、今日から、今日やらないことは明日もやらないというのがモットーなので、今日から動きます。就労困難のいろいろな態様の方々が、来年のこの場にはいろいろな発言をいただいてつながる状態をもう具体的につくっていききたいというふうに考えています。

その他にも今日はダイバーシティ就労、ワークダイバーシティの考え方のもとになったユニバーサル就労という視点で、千葉で展開している池田さんも今日来られています。私たちの活動にも参画いただいています。東京都では小池知事が肝入りでソーシャルワーム条例をつくらうとしていて、非常に兄弟関係とか親子関係というような発想が、ダイバーシティに近いところで出ている。あそこは間違っている、ここは正しいみたいな、言い争いではなく、しっかりとこの世の中は一体誰のためのものなんだということをしっかりと実現することに私たちは力を注いでいきたいと考えています。先日八王子でお話しさせていただいたときに、ある支援者の方が言っていました。障害者の就労支援事業所で働きたいので、病院のドクターに頼んで、診断名を書いてつけてもらった、そうしたら就労継続支援 A 型事業所に行けましたと。どう思います？ 制度って誰のものなのでしょう。でもそもそも、よく考えたら、私もそんなことをしたような記憶があります。障害者総合支援法におけるサービスというのは、もう手帳ではなく診断書というところになっているので、病院に行つてうつとかつけてくれて言った記憶が数限りなくもしかしてあるかもしれない。そうではなく、その人がありのまま、この生きづらさがあるとすれば、それを指標としてきちっと表わして、働きづらさがネガティブなものではなく、それを応援していく。それを言うことがスティグマになるのではなく、それを言える社会であって、それを支援する社会をつくり、次の世代に渡していくことが私たちの仕事ではないかと思えます。どうか引き続きよろしく願いします。一緒にがんばりましょう。ありがとうございました。